

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	島根県益田市立益田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 31
学級数	4	4	5	2	15	
生徒数	156	140	169	3	468	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の定着をめざす指導のあり方
--------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>TT・少人数指導... 1年数学・英語          39人学級の解消、生徒の理解に差が出やすい教科、学年であるため          3年数学・英語          理解度の差が顕著となる学年であり、個に応じた指導を進め、個々の進路保障を図るため          1年～3年書写          きめ細かく技能等を指導していくためにはTTで行う必要があるため          全校活動・・・朝読書、一斉漢字テスト          総合的な学習の時間・・・各学年          その他・・・教科研究（各教科）</p>
--

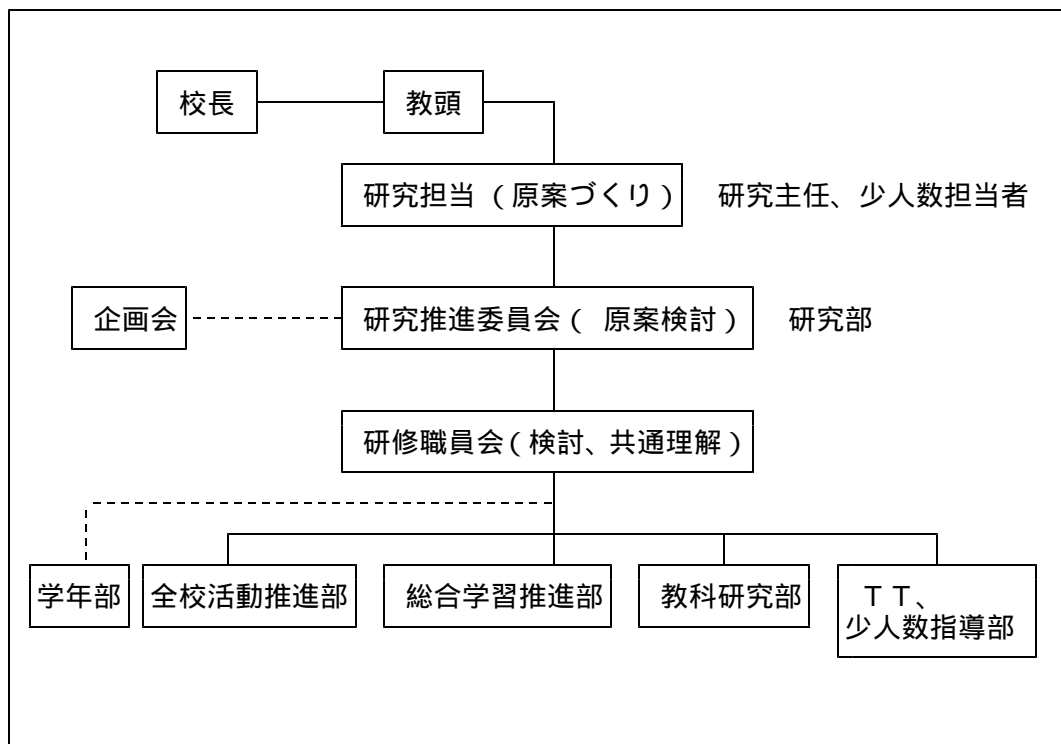
(2) 年次ごとの計画

平成15年度（1/2年次）	<p>テーマ「確かな学力の定着をめざす指導のあり方」</p> <p>研究の見通し          初年度ということで、次の2点に焦点を当てて取り組む。          ・本校の教科指導等の取組を見直し、具体的な改善策を立て、共通理解を図り、実践していくことで生徒の確かな学力の育成につなげる。          ・各研究部の取組（アンケートや評価など）や教師間の連携（例えば、TT）により、生徒の実態をつかむ。また、実態に基づいた個別の支援のあり方を工夫する。</p>
---------------	--

	<p>研究の内容・方法</p> <p>TT、少人数指導</p> <p><b>数学</b></p> <p>1年生・・・1学期 各学級の人数を均等に二分して少人数授業を実施。</p> <p>2学期 方程式の単元から、全学級を基礎・発展のコースに編成しなおして授業を実施。</p> <p>3年生・・・基礎・発展のコースに分けて、少人数指導を実施（場合によってはTTで行うこともある）。 数学の研究授業を実施。</p> <p><b>英語</b></p> <p>1年生・・・各学級の人数を均等に二分して、少人数指導を実施。</p> <p>3年生・・・基礎・発展コースにわけ、少人数指導を実施。</p> <p><b>書写</b></p> <p>TTによる授業を実施。</p> <p>全校活動</p> <p>&lt;朝読書&gt; 月～金、朝10分間読書タイム。 アンケートの実施～より一層の定着に向けた吟味。</p> <p>&lt;全校一斉漢字テスト&gt; 毎月1回全校一斉漢字テストを行う。練習プリント形式の検討。 平均点の集計。</p> <p>総合的な学習の時間 各学年でテーマを決め、学力向上フロンティアの趣旨にそって目的を決め、生徒の主体的な活動を取り入れる。</p> <p>教科研究 各教科における基礎・基本の明確化と評価方法の検討。 数学実態調査～2年生</p>
--	--

<p>平成 16 年度 ( 2/2 年次 )</p>	<p>テーマ 「確かな学力の定着をめざす指導のあり方」</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15年度に行ってきた少人数指導、TTの他、個に応じた指導のための方法や教材開発等、各教科で実践していく。</li> <li>・全校活動を生徒の実態にあわせて工夫していく。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数、英、書写による少人数指導、TT等の指導は引き続き行い、さらに理解力や技能を高めていけるよう、指導方法や内容を工夫する。他教科においても各教科の特性にあった方法で、個に応じた指導方法等を考えていく。</li> <li>・朝読書、全校一斉漢字テスト等、生徒のアンケートをもとに考察し、工夫していく。</li> </ul>
--	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

T T、少人数指導について

2学期以降の習熟度別の取組では、クラスごとに個々の学習状況に応じた授業展開ができた。特に、基礎コースでは全体につまづきの多い箇所を丁寧に全体指導することができた。(1年数学)

基礎コースの少人数指導実施前と実施後に評価テストを行ったが、基本的な計算問題について、成果が見られた。(3年数学)

少人数指導、T Tを取り入れることにより、生徒の前向きな活動やコミュニケーション活動ができた。(英語)

少人数指導、T Tを取り入れることにより、生徒の様子をよりくわしく把握することができ、より多くかかわれるようになった。生徒からも質問しやすくなったという声があがっている。(共通)

全校活動では、朝読書がほぼ定着してきた。

全校一斉漢字テストについては課題プリントの新しい形式が、生徒にも勉強しやすいと評判がよい。また、各学年部の連携した取組によって全校の意識が向上してきている。

## 2. 今後の課題

- ・少人数指導でも、練習問題の個別指導などでは一部の生徒にかかりきりになり、全体に指導が行き届かない面がある。今以上に生徒の様子を把握し、個に応じた指導を展開していくための計画・工夫が必要である。
- ・朝読書のアンケートの結果をみると、朝読書に対する意識の個人差が大きいことがわかる。中には、朝読書の意義が知りたいという声もあり、より一層充実した時間になるよう創意工夫していきたい。

### 学力把握のための学校としての取組

数学評価テスト（基礎コース 少人数の効果、生徒の学習状況を把握するため）  
数学学力テスト（2年生 実態把握調査 1学期実施）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・公開授業によって本校の取組を他校職員や保護者にみてもらう機会をとっていく。
- ・学校報に学力向上フロンティアスクールとしての趣旨や取組を掲載する。少人数指導、コース選択等の通知文を保護者に配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                         10～12学級  
                                  13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                  外国語               音楽               美術               技術・家庭  
                                  保健体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有               無